

別紙様式

平成27年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	ESD 関連推進費
事業実施代表者名	副校長 三浦 英悟
実施附属学校名	附属札幌中学校
事業内容 (実施内容について、1,000 字程度で記述)	<p>本校では、特色化に関わる独自の取り組みとして、将来に渡ってよき世界人となるための資質となるグローバルマインドの育成に取り組んでいる。そのため、ユネスコスクールに加盟し、持続発展教育（ESD）を取り入れることで、生徒への意識化を図っている。その一貫として、中国塩城中学校、韓国梨花女子大学附属中学校と姉妹校提携を結んでいるところである。中国塩城中学校については、国際情勢の関係の悪化等により交流が難しくなってきたが、韓国梨花女子大学附属中学校とは平成 24 年 6 月に相互交流を実施し、姉妹校提携を結ぶ中で、相互対面交流事業を今後も実施していくことを確認した。交流事業は隔年で実施することとしたため平成 25 年度については対面交流をもてなく、平成 26 年 6 月に相互交流を計画していたが、4 月 16 日におきた韓国の大型旅客船の沈没事故を受けて、韓国教育省が当面の間修学旅行を全て中止することとしたため、梨花女子大学附属中学校から今回の交流事業は見送りたい旨の申し入れがあった。来年度から再開することが確認できているため、経費を使用して、本校校長と教諭 2 名が韓国梨花女子大学附属中学校を訪問し、来年度の実施の打合せを行ってきた。グローバルマインドの育成に向けて、来年度の 6 月に韓国の生徒 30 名が来校し、翌週に本校生徒 30 名が韓国を訪問する。来年度の実りある相互対面交流を目指し準備を進めることができた。これにより、生徒だけではなく、教師の意識が高まるとともに、姉妹校との教師間交流が図られ、より円滑な交流が可能となった。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500 字程度で記述)	<p>今年度は、韓国梨花女子大学附属中学校を校長、教師 2 名が訪問し、来年度再開される相互交流に向けての挨拶と具体的な内容を確認することができた。平成 24 年度に実施して以来交流が途絶えていたので、改めて再開できる意味についても確認することができた。また、来年度実施する期日と内容についても以前と同様に相互交流とメールによる交流の充実について確認できた。6 月第 1 週に韓国の生徒 30 名が本校を来校し、本校の家庭にホームステイ。翌週に本校生徒 30 名が韓国を訪問する具体的なところまで打合せをすることができた。更に、韓国の文化を本校生徒に理解してもらう目的で、韓国の生活・文化に関するなどの資料を購入し、本校生徒に紹介することができた。韓国との交流事業に関しては、国際情勢などの関係が大きく影響されることが、交流を続けていく上での大きな課題である。</p> <p>また、教員の意識向上とグローバルマインド及び ESD に関する教育効果向上に資する研修会の参加旅費とした。さらに、研修成果は校内研修会の中で他の教員に還</p>

	元した。これにより、本校教員の ESD に関する意識が深まるとともに、生徒への指導内容の広がりにも効果が上がってきている。
今後の発展性 (残された課題の 解決方策及び取 組の方向性につ いて、500 字程度 で記述)	<p>平成 27 年 1 月に、韓国梨花女子大学附属中学校より、韓国側の都合による相互交流中止のお詫びとして、事前に行っていた本校生徒と梨花生徒との e-mail による交流をまとめた冊子が梨花女子大学附属中学校より送られた経緯がある。</p> <p>平成 27 年 12 月には、本校から韓国梨花女子大学附属中学校を訪問し、来年度の生徒交流の実現が可能になった。来年度以降の生徒交流については互いに進めていく方向が確認されたが、相互訪問することに関しては今後検討していく。</p> <p>教師の交流について、今年度訪問時は時期的な理由で授業を観察することができなかったが、教員の意識向上に向けて、韓国の授業の観察・交流を進めて行きたいと考えている。</p> <p>教員の意識向上とグローバルマインド及び ESD に関する教育効果向上に資する研修会との併用により、生徒に対してさらに効果的な教育が見込まれる。</p>
事業の公表状況	特になし



(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。